編集ボランティアのページ

●担当編集ボランティア／日置雅夫・岩下茂子

障害者のためにパソコンを活用
～仲間の一人として助け合い～

ありんこは、平成 11 年 1 月に視覚障害者が社会とのつながりを得る便利な道具パソコンを使いこなす支援をするため設立されました。現在会員は 58 名です。利用者が 42 名、ボランティアが 16 名です。

思いやり会館の1階で毎週火、水、木、金曜日に勉強会を行っています。障害者のためにパソコンやタブレット端末の利用方法を教えています。なお、年 4 回の日曜勉強会もあります。

ありんこでは、障害に応じた支援を行っています。障害の程度は人それぞれです。その人に合った方法を理解し支援しています。

また、各種の障害を持ちながらも学習を通じ、新しい仲間と出会い、触れ合い、助け合いながら活動を行っています。会員同士のつながりを大切にしています。年数回の誕生会、花見、忘年会、日帰りバス旅行などのイベントを行っています。

「中途失明しましたが、70 歳を過ぎてパソコンを習い、俳句の楽しみを取り戻しました。自分の生きた証として句集を残せるのでうれしいです」（全盲の会員の声）

「私をありのままで受け入れ、仲間としてくれました。感謝しています」（肢体不自由な会員の声）

最後に、長年障害者のために活動されている代表の松﨑さんに聞きました。

「ありんこは、ともすれば引きこもりに陥りかねない障害を持つ方達が、安心して集える場所、心のオアシスです。興味を持たれた方は、一度見学にお出で下さい。お待ちしております。」

新たに iPad 勉強会を始める

充実した第二の人生を生きる

第二の人生をマジック披露ボランティアで活躍している 渡辺 英房 さんを紹介します。

渡辺さんのマジックとの出会いは定年を間近に控え、退職後の生き甲斐を考えていた時だったそうです。当時の中部マジック協会の会長と出会い、感銘を受け、マジックに実際に触れてみることで、次第に生き甲斐となり、それから 20 年あまり、ボランティアでいろいろな場所をめぐり、技を披露しながら頑張ってみえます。

渡辺さんがいつも心がけていることは、披露する相手が楽しんでもらうことを第一とし、その為に、相手に合わせたマジックを考えて披露することだそうです。例えば幼児には幼児に合ったマジックを、ご年配にはご年配に合ったマジックを考えるそうで、より相手が楽しんでもらえるよう日々考え、努力しているそうです。

これからも、毎日が勉強なのだという思いでマジックを研究し、研鑽することで、より多くの皆様に笑顔を届けられるよう頑張っていきますと、力強いコメントをいただきました。これからもお体に気を付けて頑張って頂きたいと思います。

生演奏に合わせてマジックを披露しています。皆さん真剣に見つめていますね。